

ワ・ラッセ見学ポイント

場 所	ポ イ ン ト
	<p>1920年頃のねぶたは数人で担いで運行していた。現在はねぶた専用の台車に乗っている。 ねぶたが段々大きくなることで担ぎきれなくなり、台車に乗せたのではないかと。戦後は、電球やバッテリー、発電に変わり、ねぶたの重量が増した。</p>
	<p>1953年頃のねぶたを制作する小屋です。町内のあちこちに小屋があり、地域の人々がねぶたを通じてコミュニケーションを図っていた。 ねぶた小屋ではねぶた制作、囃子が受け継がれていった。 現在は町内70数ヶ所でねぶた運行が行われている。</p>
	<p>現在のねぶた運行の体系をあらわしたもの。先頭からミスねぶたのオープンカー(特別)、役員団、ハネト(踊り手)、ねぶた、囃子の順番に体系が組まれる。 この行列の団体が1日20団体から22団体運行する。 運行コースは約3.1km でコースは口の字形になっている。</p>
	<p>入口から中に入ると映像が流れる。 ねぶた祭8月2日～7日までの6日間を4分間にまとめたものである。 ねぶたの由来も書いているが、ねむけ=悪い物を体から祓うというネムリ流し説がある。 ねぶたの言葉は眠気のねむりからきたと言われている。</p>
	<p>進行方向左側にはねぶたの動画がある。中でもねぶたができるまでの動画はおもしろい。制作者は1日のほとんどを小屋で過ごす。 一人で数台作る制作者もいる。制作者はいろんな業種のスタッフと一緒に一台のねぶたを制作する。家をつくるのと似ている。通路がトンネルに似ているが、ねぶたの腕の骨組をイメージしている。</p>
	<p>ミュージアム内を進むと正面に大きなねぶたの面が飾られている。 手元の画面に指で顔を描くと飾っているねぶた面に投影される。 自分だけのねぶた面を短時間で描くことができる。</p>
	<p>見晴台からねぶたを見下ろすことは、祭りでは見ることはできない。 ワ・ラッセならではの見学場所、中心部まで繊細に作られていることが分かる。貴重。 反対側の壁には2代名人北川啓三(きたがわけいぞう)と3代名人佐藤伝蔵(さとうでんぞう)、4代名人鹿内一生(しかないいっしょう)の作品が展示されている。 ねぶた面のひげ、眉毛に植物を使っている。非常に貴重な作品</p>
	<p>スロープを降りると右手に下絵(設計図)がある。展示している大型ねぶたのもの。 一番最初の下絵の場所は大型ねぶたと見比べることができる場所。 設計図と完成品を見比べることができる。見逃せない場所</p>
	<p>スロープを降りると正面に大きな白い壁が見える。正時(ちょうどの時刻)には400インチの運行映像が10分間投影される。展示している大型ねぶたが実際に運行している様子が分かる。</p>

写 真	ポ イ ント
	<p>スロープを降りると目の前にステージがある。こちらでは囃子の生演奏&ハネト体験ショー約30分が開催される。 演奏を聴くだけでなく、実際に楽器を演奏したり、ハネトになることもできる。 土・日・祝 11:00 13:00 15:00 (ねぶた祭、お盆時期は特別演奏あり)</p>
	<p>ねぶたホールには選りすぐりの大型ねぶた5台が展示している。 祭りと違い、動かないからこそ知ることができる大きさの迫力、繊細な構図・色づかい。 各ねぶたの題材は歌舞伎、武将、伝説などをもとに作られている。 ねぶたと一緒に写真を撮るときは人はカメラ寄り、必ずフラッシュを使うことがポイント。 大きさは幅9m、高さ5m、奥行7m 台からはみ出した部分も含めたサイズ。</p>
	<p>ねぶたホール内には実際に触ることができるねぶたパーツが5台展示している。 この機会に普段触ることのできないねぶたに触れ、紙の触感、ろう書きの臭いなど五感を使って感じることができる。 パーツは「面」「足」「手」「波」「炎」があり、すべて制作工程がわかるようになっている。</p>
	<p>花笠をかぶって記念写真が撮れる。 ハネトの衣装には花笠というかぶり物が必要、ハネト気分だねぶたと一緒に写真が撮れる。 花笠のてっぺんにはハトの飾り物がついているが由来は不明。</p>
	<p>ねぶたの面がづらり展示している。ねぶたの面には制作者の特徴があらわれる。 見比べると違いが分かります。同じグループに属している制作者は顔が似ている。 4代名人鹿内一生(しかないいっしょう)の弟子たちには鼻に共通の特徴がみられる。 4つの面がグループ、見つけられるかな。</p>
	<p>ねぶた制作者のプロフィールが展示。ねぶたに対する思い、師匠が分かる。 最近では若手制作者が増えている。2012年には初めて女ねぶた制作者が誕生北村麻子。(きたむらあさこ) 6代名人北村隆(きたむらたかし)の娘。</p>
	<p>ねぶたグッズを買うなら「アイモリー」展示用のねぶた面も売っている。 ねぶたの柄のシャツも人気。お土産のお菓子ではねぶたがプリントされたせんべい。 地元食材を使ったお菓子、スイーツもたくさんある。</p>
	<p>海鮮ものを食べるなら「田」。 地元食材を使った新鮮なすし、ちらしが食べられます。 そば、ラーメンもおすすめ。 お酒好きにはたまらない地酒もある。</p>